



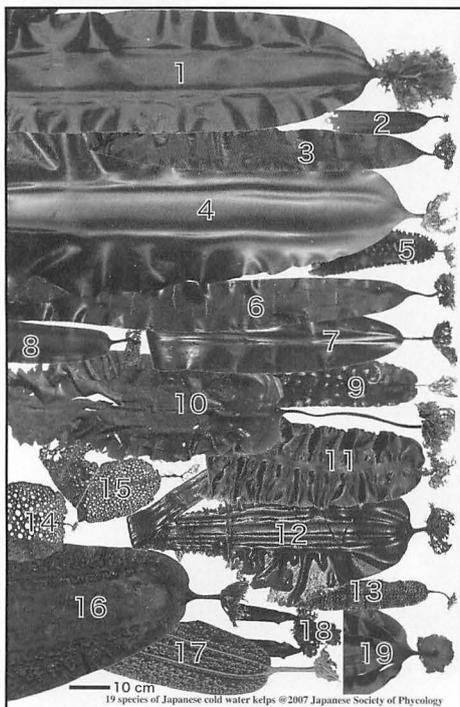
— 10 cm
19 species of Japanese cold water kelps @2007 Japanese Society of Phycology

日本の寒海性コンブ類

日本のコンブ科 10 属 27 種のうち北海道や東北地方太平洋岸に分布する寒海性コンブ類は、コンブ属 13 種、ミスジコンブ属 1 種、トロロコンブ属 2 種、アナメ属 2 種、スジメ属 1 種、ネコアシコンブ属 1 種の 6 属 20 種が報告されている。ここにはそのうちのカラフトコンブ（コンブ属）を除く 6 属 19 種の葉体を示したが、その中にはマコンブ（写真 1）やミツイシコンブ（写真 7）のように水産上の有用種が多く含まれている。一般にコンブ類は多数の根枝から成る付着器と 1 本の茎状部、および 1 枚の葉状部から成る比較的単純な形をしているが、それらの各部には多くの特徴的な形質があつて、種を同定するときの重要な形態的基準となっている。コンブ属 12 種の中で、葉が掌状を呈するゴヘイコンブ（写真 19）以外はいずれ

も単状葉を持つが、それらは葉面に 2 列の凹凸紋が生涯にわたり形成されるチヂミコンブ系（4 種：写真 5, 8, 9, 11）、2 列の凹凸紋が生涯の途中で消失するマコンブ系（5 種：写真 1, 2, 3, 4, 10）、および 2 列の凹凸紋が生涯形成されないミツイシコンブ系（2 種：写真 6, 7）に分けられる。ネコアシコンブ（写真 18）は新葉が毎年倍増する特殊な再生機構を持つ種である。最近、コンブ類の生活、生態研究によって生長の各段階における葉体の形質変化が詳細に知られるようになったが、その反面で種間の系統関係を更に理解するためには従来の形態学的な知見のほかに、近年急速に発展しつつある分子系統解析の手法への期待が高まっている。

（函館市本通 2-20-23 川嶋昭二）



1. マコンブ（北海道函館市東戸井産）
2. ホソメコンブ（北海道乙部町元和産）
3. リシリコンブ（北海道利尻町久連産）
4. オニコンブ（北海道浜中町産）
5. チヂミコンブ（北海道焼尻島産）
6. ナガコンブ（北海道厚岸小島産）
7. ミツイシコンブ（北海道函館市七ツ岩産）
8. ガッガラコンブ（北海道厚岸小島産）
9. エンドウコンブ（北海道室蘭産）
10. エナガコンブ（北海道厚岸湖産）
11. カラフトトロロコンブ（北海道根室市バラ島産）
12. アツバスジコンブ（北海道羅臼町礼文沖産）
13. トロロコンブ（北海道根室市バラ島産）
14. アナメ（北海道厚岸産）
15. オオノアナメ（千葉県御宿町沖産）
16. ガゴメ（北海道函館市瀬田来産）
17. スジメ（北海道函館市白尻産）
18. ネコアシコンブ（北海道厚岸大黒島沖産）
19. ゴヘイコンブ（北海道厚岸小島産）

すべて川嶋昭二博士が撮影。学名は現在議論中のものがあるため記述しなかった。詳細は、本誌（p. 167-172）四ツ倉典滋博士の総説を参照されたい。